



アカシア

Wattle



学名：Acacia Mill. (アカシア)
 科目：Leguminosae (マメ科アカシア属)
 原産地：南半球の熱帯～亜熱帯

花



約1200種が知られているアカシア属は、南半球の熱帯から亜熱帯を中心に分布する常緑低木または高木です。日本には明治時代初期に伝わり、花が美しく、温暖な地方ではやせ地でも丈夫に育つので、街路樹などによく使われてきました。

樹高は種類によって1～20mになり、上方の枝はよく分枝し、横に伸びていきます。葉は多くのものが羽状複葉ですが、乾燥地に育つ種類は、葉柄が平たく葉状になった仮葉をつけるものもあります。花は早春から春にかけて、ごく細かな小花が寄り集まって球形または細長い筒状の頭状花序に咲き、花房は長さ2cmほど。花色は黄色または白色です。

庭木や切り花によく使われるのは、ギンヨウアカシアと呼ばれるアカシア・ベイリアナで、銀灰色の葉や、球形につく黄金色の花が

特徴的。また、フサアカシアと呼ばれるアカシア・デアルバタは、濃黄色の花により香りがあることから、世界中で広く栽培され、この花のブーケを投げ合い、春の訪れを祝うフランスのミモザ祭りは有名です。さらに、樹形が美しいアカシア・ウェルティキラタは、高さ5mほどに育つ低木で、葉がスギに似ているところから、スギバアカシアという和名をもっています。

庭木や切り花として、世界各地で栽培されているアカシア

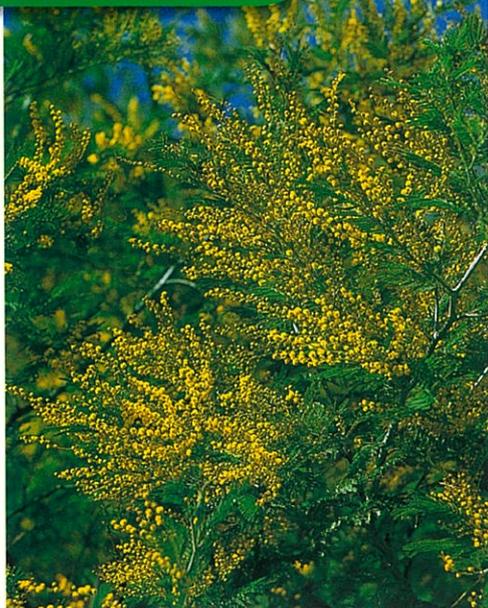


枝先に丸く黄色い花が集まるサンカクバアカシア

アカシア

MEMO

栽培：難易度 ★★★☆☆	開花時期：2月下旬～4月中旬
生育温度：15～25℃	収穫時期：－
手入れ：剪定	高さ：1～20m
土：5：3：2 (赤玉土：川砂：腐葉土)	病気・害虫：カイガラムシ



枝先に多数の黄花をつけたアカシア・デクレンス

ちなみに、アカシア属の仲間は観賞用ばかりでなく、香水やアラビアゴム、家具の原材料としてもよく用いられています。

栽培ポイント

👤 栽培

移植に弱く、大きく育つので、地植えの場合は十分に間隔をとって植えつけます。また、耐暑性はあるものの、耐寒性があまりないので、東北地方以北での栽培はややむずかしいようです。暖地では戸外でも冬越しできますが、霜や寒風が当たらない、日当たりのよい場所に植えましょう。

植えつけの適期は4月中旬～5月中旬。ポット苗や樹高1～2mほどの幼木は、根鉢の2倍程度の植え穴を掘り、やや浅植えにして、たっぷりと水を与えます。なお、購入した鉢植えは、毎年植えかえと剪定を行い、大きく育てないようにすることがポイントです。

🌡️ 生育温度

適温は15～25℃。暑さに強く、夏越しの問題はありませんが、寒さにやや弱いので、東北地方以北の寒冷地では鉢植えで育て、冬は室内に取り込みます。

✂️ 手入れ

花後の4月～5月中旬に、長く伸びすぎた枝を切りつめ、込み合った枝は間引いて樹形を整えます。とくに鉢植えは、樹勢を抑えるた

めにも、この時期の剪定は欠かせません。

☀️ 日照

日向を好みます。年間を通してよく日光が当たる場所で育てましょう。

💧 水やり

湿り気を好むので、4～10月の成長期には1日1回、たっぷりと水を与えます。11～3月は、水やりの必要はありません。

▲ 土

やせ地でもよく育ちますが、水はけのよい土が適しています。赤玉土5、川砂3、腐葉土2の割合で混合したものがよいでしょう。

🍷 肥料

元肥は必要ありません。追肥は、毎年3月に1回、1m²につき100g程度の化成肥料を株元に施します。根が傷みやすいので、肥料の与えすぎは禁物です。

🪴 植えかえ

地植えの場合は必要ありませんが、鉢植えの場合は根鉢を3分の1ほどくずし、根を傷めないように注意して、毎年植えかえましょう。適期は2～3月です。

殖やし方

実生や取り木、挿し木などで殖やせますが、開花まで4～7年かかるうえ、苗木を丈夫に育てることがむずかしいので、新しい幼木や成木を購入するほうが確実です。

購入アドバイス

早春から初夏にかけて、幼木のポット苗や樹高2m以内の鉢植えが出まわります。葉の色つやがよく、枝ぶりのよいものを選びましょう。



細長い花房を形づくる種類

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
☀️ 日照		日向											
💧 水やり								ふつう					
🍷 肥料													
🪴 植えかえ									不要				

🌿 病気対策と害虫防止 🌿

- 初夏から秋にかけて、葉や枝にカイガラムシがつきやすいので、5～9月にスミチオン乳剤を散布して防ぎます。見つけたら、歯ブラシなどで掻き取りましょう。